

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和元年5月22日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅳ》</p> <p>ウ. 教職員研修に関すること</p> <p>・日本語指導を充実させるための教職員研修のあり方について</p>
調査研究のねらい	<p>本夜間学級には10代から90代まで幅広い年齢層の生徒が在籍し、在籍年数も様々である。外国籍の生徒は全体の約8割を占めている。国籍は12ヶ国にのぼり、「あいうえお」の学習から始める必要がある生徒も多数在籍している。</p> <p>このような現状により、言葉や文化の違いから孤独感を深め、コミュニケーションがうまく取れず、学校生活になかなか馴染むことができずに、不安を感じて、集中して学習に取り組めない状況に陥る生徒がいる。</p> <p>このことから、本夜間学級では、日本語の習熟度が低い生徒の、日本語能力の向上は、大きな課題となっている。日本語のつまづきを無くすことが、年齢や学習歴、国籍の異なる多様な生徒同士の間関係づくりにつながっていくと考える。</p> <p>日本語指導力向上研修の一つとして、音楽を用いた効果的な日本語指導法について研修を行う。音楽を用いることにより、日本語の理解力の向上、正しい発音の習得、そしてイントネーションが改善される効果を期待する。そして、研修の成果として生徒がミニコンサートに参加し、どこまで日本語の歌詞の意味を理解できたのか、どのくらい日本語のフレーズなどを言えるようになったのか等を授業でのパフォーマンステストで検証する。</p> <p>また、ミニコンサートで音楽に触れることにより、言葉だけでは表現できない感情を育て、異文化理解や、互いの文化を認める態度を育成することができると思う。</p> <p>この調査研究では、生徒一人ひとりに応じた効果的な教材づくりや、通訳者の少ない言語または通訳者のいない場面における指導方法について教職員研修を行い教職員の能力の向上を図り、生徒の日本語能力の向上に資することをねらいとする。</p> <p>これまでも外国籍の生徒の日本語能力向上のため、効果的な教材や指導方法について研修を行ってきた。日本語の習得状況に応じて7クラスに分け、各クラスで10種類以上の自主教材を用いて授業を実施している。これまで作成してきた教材の効果検証を行い、改善を図ることが、生徒自身の学習意欲を高めることにつながっていくと考える。生徒の実生活に即した日本語のテキストを作成するとともに、それらを用いて、生徒の母語から日本語へとスムーズに変換でき、理解が深まる指導方法について調査研修を行い、日本語指導を充実させる。</p>

<p>調査研究の成果</p>	<p><生徒の日本語能力向上のための効果的な授業教材の作成></p> <p>[通年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日本語能力の向上に向けて、学年の枠を超えた7つの日本語の習熟度別クラスに分けることにより、少人数指導による個に応じたきめ細かな指導を実施した。 ・「わかりやすい授業教材の作成」をテーマに、授業で使用する日本語習熟度別のテキストは、生徒の実生活で使われる日本語をできる限り多く取り入れた教材となるように工夫した。これまで作成してきた教材の効果検証については、毎月行う習熟度別検討会議で意見交換を行い、改訂をすすめた。 ・少人数制習熟度別授業を、生徒の日本語習熟度に応じたテキストを用いて実施することにより、生徒の日本語を使用する際のつまづきを減らすことができ、学習意欲の向上につながった。 <p>[各学期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿夜間中学校協議会の研究部会において、日本語指導の教材作成を行っており、本夜間学級から教材を提供した。 ・他府県の教員と教材開発や日本語の指導方法について情報交換をすることで、日本語指導の具体的な取組に関する情報を得ることができ、本学級での教材作成に生かすことができた。 <p>[～3月]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に「生徒作文 あしあと」を作成し、日本語学習のまとめとした。毎年作成している作文集なので、昨年度のものと比較して読むことで、自分自身の成長を感じる機会となっている。また、教員による作文の分析により、年度末段階での生徒の日本語能力を把握し、次年度の学習につなげようとしている。 <p><音楽を用いた効果的な日本語指導方法></p> <p>[通年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歌を日本語の授業に取り入れることにより、日本語の理解力の向上に加え、正しい発音の習得、そしてイントネーションの改善等を図った。生徒が繰り返し歌を歌うことによって、歌のフレーズを覚え、実際にそのフレーズを使用したりすることで、語彙力の向上にもつながった。 <p>[11月・12月]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会やミニコンサート等の活動を通して、どこまで日本語の歌詞の意味を理解できるようになったのか、どのくらいの日本語のフレーズを言えるようになったのかを、授業の中でパフォ
----------------	--

ーマンステスト等を行い効果検証をした。

<成果研究の課題>

・日本語習熟度別テキストの活用や音楽を用いた学習により、生徒の日本語能力の向上はパフォーマンステスト等の結果で見られた。その一方で、日本語がある程度理解できるようになると、遅刻・欠席が増える生徒がでてくるのが課題である。日本語の学習だけではなく、他の教科指導においても授業改善を図り、生徒のモチベーションが上がる授業づくりに取り組む必要がある。